

第4期指定国立大学法人構想のポイント

日本の社会科学の改革を牽引し、
持続可能な未来に向けて架橋する拠点の形成



一橋大学長

中野 聡

2023年3月

目次

目指す姿と戦略 第4期指定国構想の概要

学長のリーダーシップによるガバナンスの強化

取組の質的転換を図る構造改革（重点事項）

- **ファカルティの徹底的な国際化と国際競争力の強化**
- **社会科学高等研究院(HIAS)の機能強化**
- **ソーシャル・データサイエンス(SDS)と一橋社会科学のシナジー**
- **学長のリーダーシップによるその他の取組**

日本の社会科学の改革を牽引し、持続可能な未来に向けて架橋する拠点の形成

学長のリーダーシップによる

ガバナンス強化

- 戦略的重点化領域の選定
- 国際業績重視の人事規律を徹底
- 全学人事ロードマップの実行
- 学内予算の再配分の強化
- 「社会科学の発展を考える円卓会議」「国際アドバイザリーボード」等の外部視点を活用した経営改革

経済学

経営学

会計学・ファイナンス

政治学・国際関係学

心理学

データサイエンス

グローバル・ロー

社会科学高等研究院(HIAS)の機能強化

国際人材獲得プログラム(HIAS BRIDGES)の推進

若手研究者育成プロジェクト
著名研究者招聘プロジェクト

英文業績数を増加
2028年に年間300本以上

既存教員を含む研究専念環境の創出

URA組織設置による研究支援体制の強化

帝国データバンク、産総研等との連携協定による共同研究の推進

四大学連合等の連携による文理共創の推進
民間企業とソーシャル・データサイエンスに関する共同研究やリカレント教育の実施

授業料収入・外部収入を20億円増加
キャンパスランドデザインの策定と実行
ソーシャル・データサイエンス研究の外部資金の増加
2025年の創立150周年に向けた募金体制強化
寄附金累計150億円へ

分野横断的な研究センターを新たに設置

データ駆動社会研究センター
国際公的統計研究・研修センター
グローバル・ガバナンス
環境経済、
心理学など

Global Captains of Industryの育成

SDS学部・研究科の充実

学士課程

英語による専門科目を200科目へ
デュアル・ゼミナール制を拡充(日・英)

プロフェッショナル教育

修士：ロースクール、ビジネススクール
国際・公共政策大学院を拡充
博士：EBPM、技術経営人材プログラムを開講

エグゼクティブ教育

シニア・エグゼクティブ・プログラム等を充実
社会の要請に応える新規プログラムを開発

SIGMA (世界の社会科学系9大学の連合)による戦略的パートナーシップに基づく共同研究・教育プロジェクト
ダブル・ディグリー・プログラムを拡大
国際共同研究の活性化

研究力強化

人材育成

国際コミュニティ
社会との好循環を
実現

社会連携

国際協働

財務基盤強化

事務組織改革

大学経営管理者育成プログラムを構築
海外大学等に職員を派遣しOJT研修を実施
研究支援、広報戦略、IR・経営戦略、
社会との共創部門の再編による国際競争力強化

学長のリーダーシップによるガバナンスの強化

戦略的な取組を推進するため、新たな資源再配分の仕組みを創設

学内予算の再配分の強化

「学長裁量経費」や、2023年度予算から新設する「指定国構想推進経費」など、学長のリーダーシップにより集約した資源を評価に基づき再配分

実績に応じた研究費の配分

部局における教員の研究アクティビティ活性化に資する取り組みを支援

2022年度の成果

複数研究科で科研費の応募の有無に応じ、研究費配分を見直し

法学研究科で2023年度科研費応募率が
前年度比約**20%up**

人事ガバナンスの強化

「HIAS BRIDGES Next」(研究専念型の若手教員を45名程度採用するプロジェクト)の雇用経費

国際業績加算給など、国際業績増加に資するインセンティブを付与する取組への支援

戦略重点化7領域の教員がサバティカルによらず研究に専念できる制度(5年以内)の創設

女性や外国人の若手教員の採用を支援するアクションプランの実施

教員の人事評価検討チームを立ち上げ、より実効性のある教員評価の運用を検討
実効可能なものから取組を実施

全学人事ガバナンスの強化

2022年、学長が戦略的に確保した財源を用いて、若手研究者を集中的に採用するプロジェクト(HIAS Bridges Next)を開始

本務教員数(講師以上)の推移と目標値

新規純増教員、退職者補充とも、学長が主宰する全学人事委員会で国際業績と進捗を徹底管理
コロナ禍等で遅れた教員採用の原因を分析し、研究に専念できる若手研究者の集中採用を推進

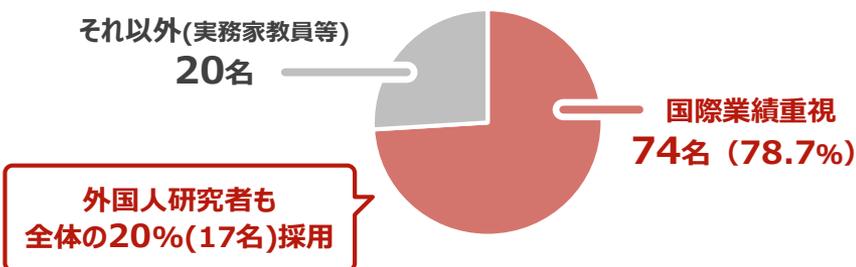


ファカルティの国際化に向け、国際業績重視の採用を徹底

国際業績を重視した採用と国際業績数の増加

新規採用教員の内訳

2019年5月2日～2022年5月1日の採用者(専任教員)94名の内訳

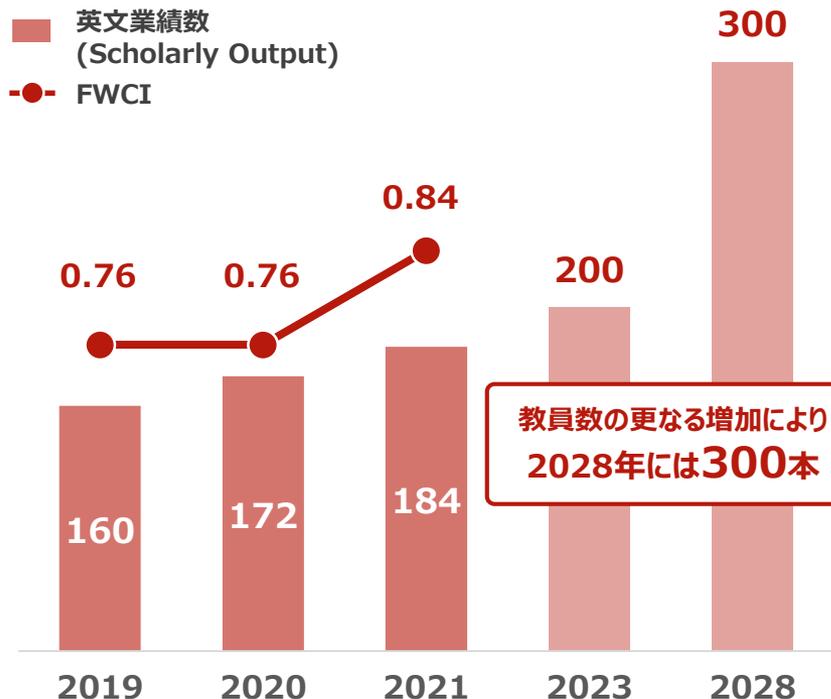


新規採用教員の国際業績指数



Scopusデータベース(2022年7月29日参照)

英文業績(Scholarly Output)とFWCI



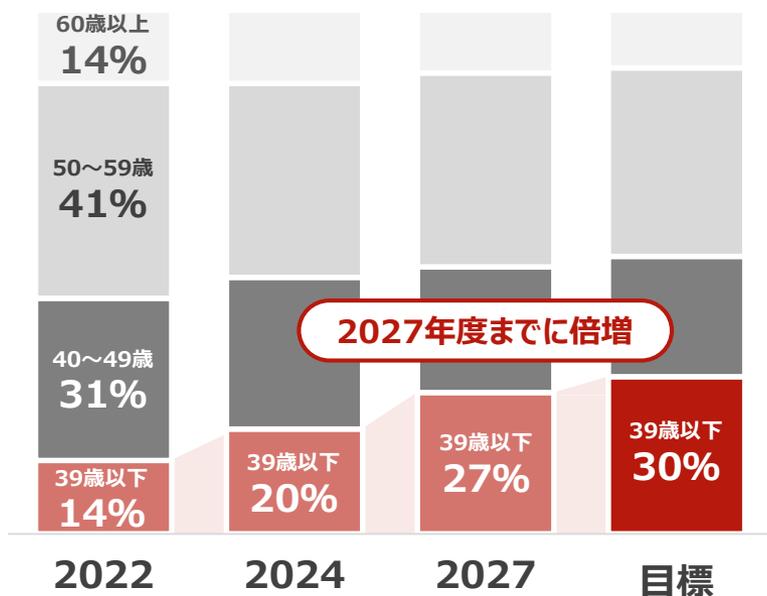
一橋大学全体の業績数 Scopusデータベース(2022年7月21日参照)

**国際業績指数が高い新規教員への入れ替えが着実に進行
その結果、論文の質(FWCI)を維持しつつ、英文業績数は目標に向けて着実に増加**

全学人事ロードマップ | 理想の年代・ジェンダー構成

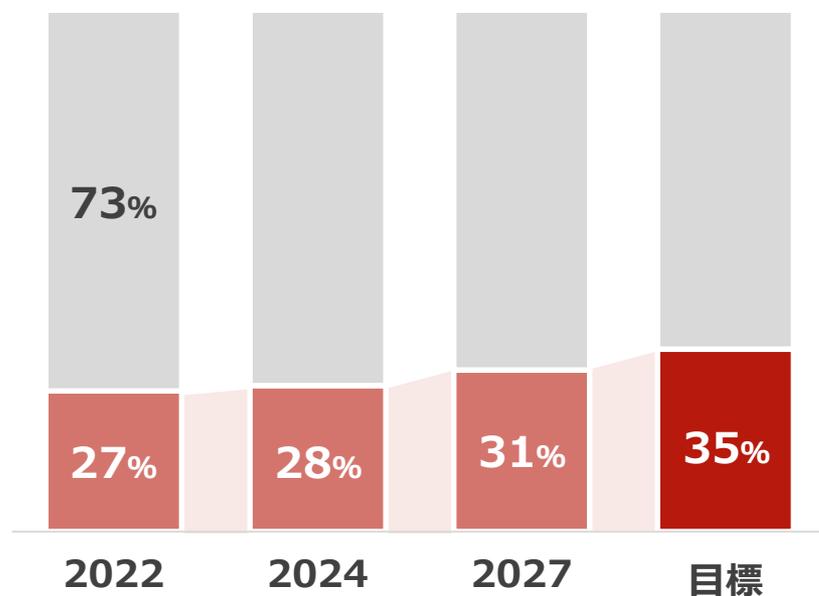
2022年11月に策定。進捗は、全学人事委員会において徹底的に管理

年代構成 | 若手教員比率



長期的に30%を目指し、モデルとなる

女性教員比率



長期的に35%を目指し、国立大学のトップクラスへ

各部署の研究力強化のため、外国人・女性の若手研究者など一定条件を満たす場合は、人件費の一部を学長裁量経費で支援する戦略的人事の支援制度を新設

学際的・部局横断型の研究を強化

学長主導で、社会科学高等研究院(HIAS)に戦略的重点化領域に対応した
新たなセンターを設置し、国際共同研究も拡充

社会科学高等研究院(HIAS) 戦略的重点化7領域の教員がサバティカルによらず研究専念できる制度(5年以内)を創設

新設・移管 センター	データ駆動社会研究センター 2023年1月新設		アジア政策研究センター 2023年1月改組	
	SDSと一橋社会科学のシナジー効果の最大化		グローバル・ガバナンス研究センター 2023年4月移管	
	国際公的統計研究・研修センター 2023年1月新設		マネジメント・イノベーション研究センター 2023年4月移管	
	国際機関と連携し、公的統計を用いた研究及び統計の品質向上のための研究を推進		環境経済に関する人新世研究センター 2023年以降新設予定	
	政府機関等の統計作成実務者等を対象とした研修の実施		心理学分野の脳科学研究センター(仮称) 2023年以降新設予定	
既存のセンター	グローバル経済研究センター	医療政策・経済研究センター	EBPM研究センター	地域・中小企業政策研究センター
	経営管理研究科	法学研究科	ソーシャル・データサイエンス研究科	海外大学等
	経済学研究科	言語社会研究科	経済研究所	外部研究機関
	社会学研究科	国際・公共政策大学院		

社会課題に対応した学際的・部局横断型の研究を強化

世界最高水準の国際人材獲得プログラム



若手研究者 育成プロジェクト

HIAS BRIDGES Next

優秀な若手研究者を**45名程度**という、
かつてない規模でHIASにおいて雇用し、
研究に専念できる環境を提供



世界最高水準の 研究者招聘プロジェクト

HIAS BRIDGES Distinguished

世界最高水準の研究者を、
リーディング大学等からHIASに国際招聘

トップレベルの「若手研究者」が重層的な研究ネットワークを形成する
「社会科学の拠点」へ

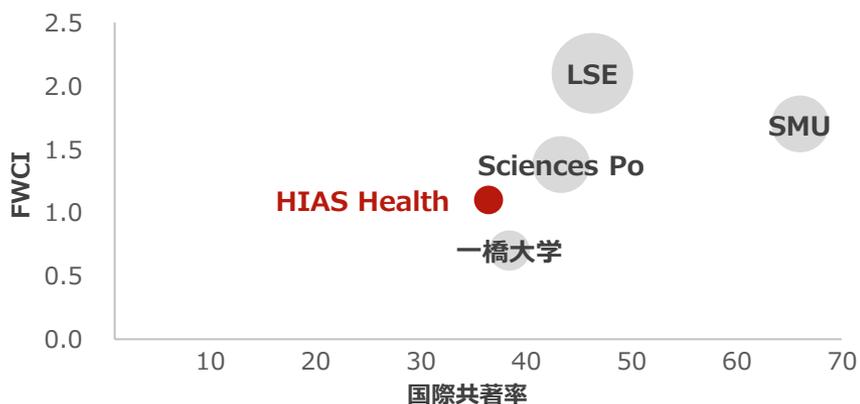
なぜHIASを強化するのか？

－ HIASの成功要因－

国際業績数とTop10%論文割合



FWCIと国際共著率



出典：Scopusデータベース（2022.8.24）2017-2021年の業績

成果の上がっている取組事例

医療政策・経済研究センター(HIAS Health)所属の
教員18名(特任教員を含む)の業績を調査

Top10%論文割合は海外ベンチマーク大学に匹敵

FWCIも1.1となっており、
世界水準の研究者集団を形成しつつある

なぜ成功しているのか？

HIAS所属により研究に専念できる

学長裁量経費等により資源を集中投下

国際共同研究実施のため外部研究費を獲得

獲得した経費で若手研究者を採用し、研究チームを拡大

医療と経済の文理融合を強力に推進

研究に専念できる制度を創設

SDS学部・研究科の新設の意義

一橋社会科学との融合

社会科学の視点から情報技術の進展やDXに貢献できる人材の輩出を目指す

データサイエンス研究に厚みのある本学の既存教員とのシナジー効果の最大化のため、新たに**データ駆動社会研究センター**をHIASに設置

産学連携の拡大

2023年3月、**三菱地所との共同研究契約を締結**。データサイエンスを活用し、価値創造に資する空間デザインについて実証研究を行い、社会課題解決への貢献を目指す

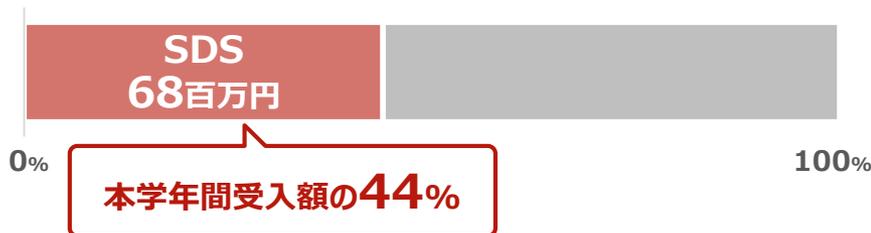
大手企業数社とソーシャル・データサイエンス分野のリカレント教育に関する協議が進展中(2023年度上半期開始予定)

外部資金受入の増加

 本格稼働前でも外部資金受入額に大きなインパクト

 新センター設置により、今後のさらなる増加を見込む

2021年度の寄附金受入額

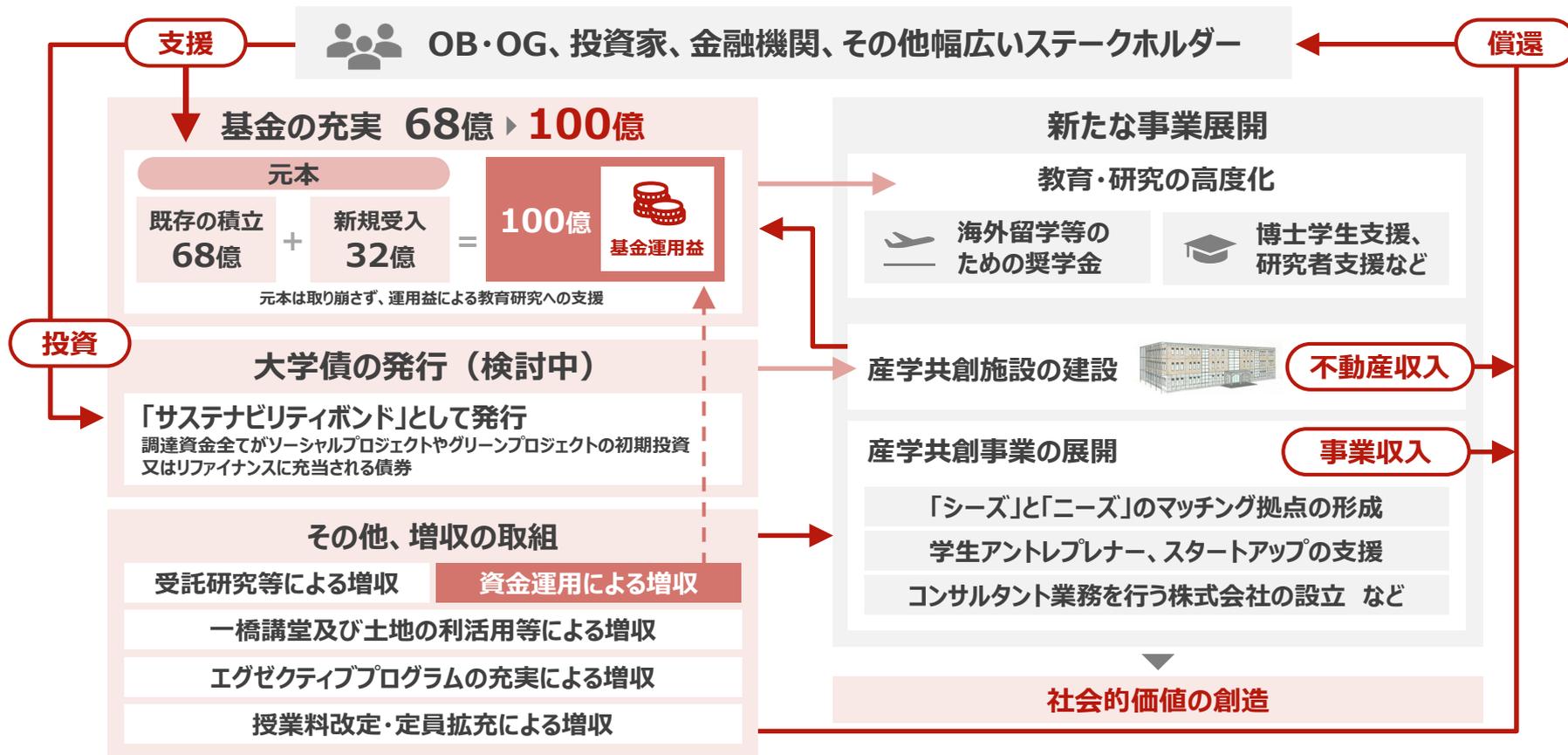


2022年度を受託研究受入額



一橋大学で伝統的に強みがある社会科学と、
数理・統計教育に基づくデータサイエンスを融合し、シナジー効果を最大化

持続可能な財務基盤の構築に向けた構想



定常的な収入を増加するため、一橋大学基金を拡充するとともに、
大学債の発行その他の増収の取組を強化し、本学の成長のための持続可能な財務基盤を構築する

変化する一橋大学 | 2023年は「ダイバーシティ元年」

学長のリーダーシップで執行体制の多様化も推進



基盤整備

ダイバーシティ担当
副学長を任命

理事・監事・役員補佐・
評議員等へ女性を登用



全学推進体制の確立

ダイバーシティ宣言・
協力員制度

ダイバーシティ推進本部・
推進室の設置

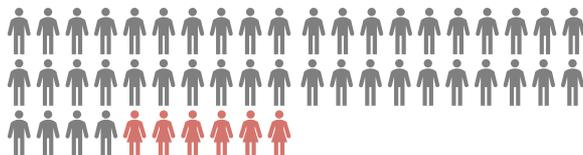


充実・展開・拡大へ

ダイバーシティセンター
設置を構想中
(150周年記念企画と連動)

取組の成果 | 増加する女性幹部 評議員、役員補佐、経営協議会と円卓会議の学外委員の女性比率

2021年4月



12%

6名/50名

2022年12月



30%

15名/51名

多様性と包容力に富む卓越したコミュニティとして、地球社会の課題に
取り組み、個性と魅力にあふれる大学としての役割を果たす